

〈帝国〉時代のコモンとコミュニケーション

The Common and Communication in the age of Empire

水嶋 一憲 (MIZUSHIMA Kazunori)

アントニオ・ネグリとマイケル・ハートが、グローバル化する現代世界を新たな視角から捉えるために提示した〈帝国〉という概念は、今日もさまざまな学問分野に強い影響をあたえている。それと並行して、グローバル化の過程で政治・経済・文化が複雑に絡まり合いながら、ウェブ2.0以降のメディア・ネットワークが世界を覆い尽くしつつある現在、人々が分かち合い、人々を結びつけるコモン（共有・共同のもの、一言でいえば、〈共〉）とコミュニケーションの動態や、両者の連関に大きな関心が寄せられている。本研究は、ネグリとハートが〈帝国〉三部作で展開したコモンをめぐる議論（コモンの生態学）の有する意義と射程を主に社会哲学・社会思想的観点から考察するとともに、ソーシャル・メディア時代におけるコミュニケーションの働きをメディア文化論の新展開（メディア生態学）をも踏まえた学際的視点から把握することを目的とする。

そのような目的に到達するために平成26年（2014年）度には、以下のような研究成果をあげた。

【図書（共著）2冊】

- ① 水嶋一憲 「ネットワーク文化の政治経済学：ポストメディア時代の〈共〉（コモン）のエコロジーに向けて」、伊藤守、毛利嘉孝編『アフター・テレビジョン・スタディーズ』、せりか書房、2014、18-41頁（総330頁）
- ② 水嶋一憲 「〈帝国〉とソーシャル・メディア時代の政治的情動」、『産研叢書38 プロジェクト共同研究〈福祉・人権概念の転回と歴史認識の転換〉』、大阪産業大学産業研究所、2015、25-49頁（総130頁）

【論文（単著）1本】

- ① 水嶋一憲 「転位しつづけるプロジェクトのために：スチュアート・ホルの闘いの遺産」、『思想』No. 1081、岩波書店、2014、61-65頁

【研究報告（単独）1回】

- ① 水嶋一憲 「制御と隷属：〈現代の政治的公共空間を捉え返すあらたな視点〉のための作業ノート」、「デジタル・メディア時代の政治的公共性とナショナリズム研究会」[日本学術振興会科学研究費補助金基盤(B)]主催の公開研究会における報告、2014年10月11日、大阪産業大学・梅田サテライトキャンパス

併せて、平成27年1月27日より2月4日までドイツ・ベルリン市に滞在し、「世界文化の家」で開催されていた Transmediale/festival 2015 に参加し、世界各地から集まった気鋭のメディア研究者たちと対話を繰り返しながら、「〈帝国〉時代のコモンとコミュニケーション」をテーマとする本研究の成果を拡大・深化させることに取り組んだ。これらの作業と成果を踏まえた上で、今後も本研究は目的の達成に向けてさらに多面的な探究を推し進めてゆく予定である。